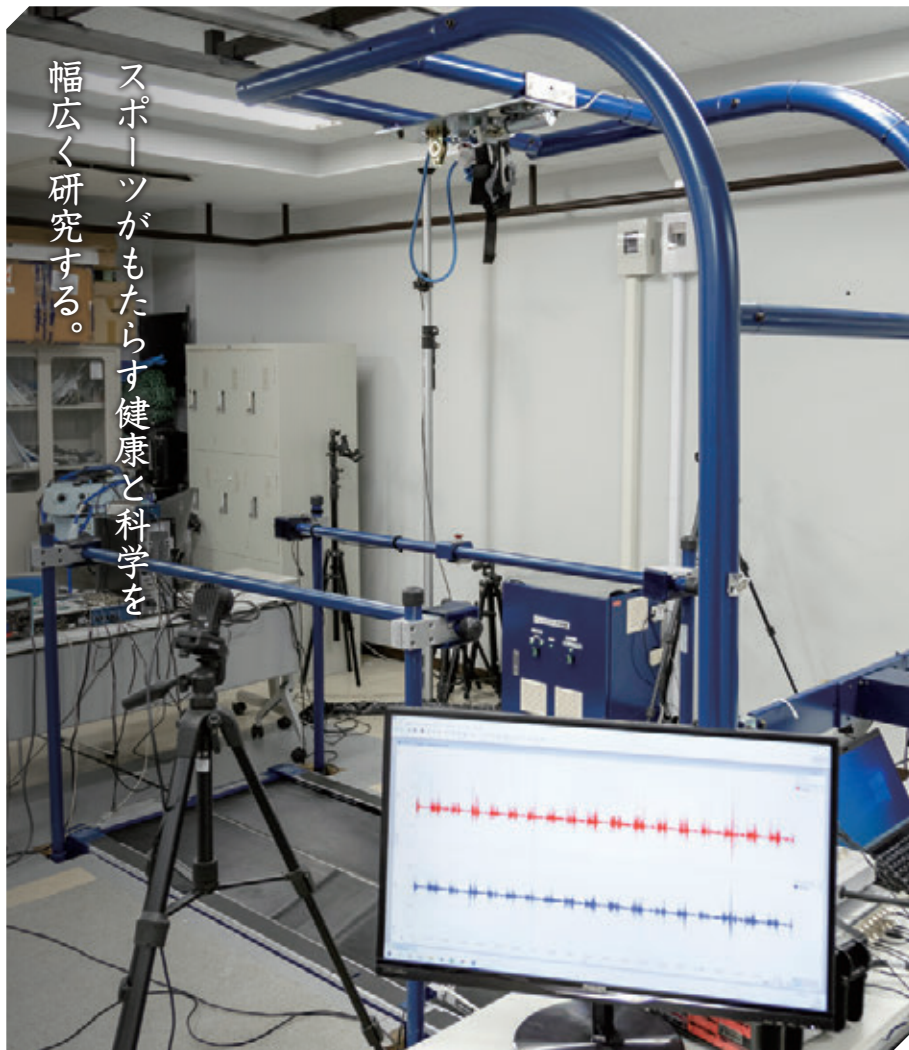


スポーツ健康科学研究科



スポーツがもたらす健康と科学を幅広く研究する。

スポーツ健康科学専攻

スポーツ健康科学研究科とは

現代社会では、健康寿命の延伸の基盤となる健康の重要性の認識が高まり、スポーツはアスリートがその頂点を争う競技スポーツだけではなく、一般の人々が健康のために楽しむスポーツまで幅広い領域にわたるものとして広く受け入れられています。これらの社会的ニーズを受け、本学では総合応用科学であるスポーツ健康科学の体系的な大学学部教育の上に、スポーツ健康科学に関するより高度な専門知識と卓越した理論を修得した専門家を養成するため、スポーツ健康科学研究科として大学院博士課程前期課程及び後期課程を設置しています。

本研究科では、基盤となる「トレーニング科学」、「健康科学」、「スポーツ社会学」の3つの分野を基軸に、スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域に関する深い知識と、実験・研究によって得られる新しい知見の獲得を目指します。さらに、多様化しつつあるスポーツ健康科学を解明するために、生命医科学や理工学領域及び工学技術の知識の導入を目指し、隣接研究科との積極的な連携を推進し、高度な専門知識を有し、健康の維持増進とスポーツの発展に関わる多様な領域で社会に寄与・貢献し、活躍できる人物を輩出します。



▲
アドミッション・ポリシー



▲
詳細は Web へ

健康科学研究 運動と健康

ヘルスプロモーションを科学的に探求する

トレーニング科学研究 運動能力と運動行動

パフォーマンスの向上を科学的に探求する

スポーツ・マネジメント研究 スポーツを取り巻く環境

スポーツの価値を社会的に探求する

スポーツ健康科学に関連する基礎学問領域の知識の涵養
隣接学問領域の知識の積極的導入

目指すフィールド

高度な研究者として

スポーツ健康科学の諸分野において新たな研究手法や学問分野を創造する能力を有した研究者として、国内外での幅広い活躍が期待できます。研究者として高度な専門知識の深化を図るため、選択した1つの分野に関する知識の集中的な修得に重点を置きます。とりわけ、博士後期課程修了者には、高度な研究者としての期待が高まっています。

■履修すべき科目例

トレーニング科学研究I~IV / スポーツ生理学特講 / 環境生理学特講 / スポーツ生化学特講 / スポーツ心理学特講 / 公衆衛生学特講 / 身体運動制御論特講 / スポーツ医学特講 / スポーツ・バイオメカニクス特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ・マーケティング・リサーチ特講 など

学校教育における保健体育教員(専修免許)

中学校・高等学校などの学校教育の現場で、より専門的かつ幅広い知見を有した保健体育教員としての活躍が期待できます。子どもたちの体力低下が懸念される昨今、教育現場が求めているのは心理学やコーチングなどにも精通した優秀な教師。教育現場で必要とされる多様な知識を幅広く修得し、即戦力となれる力を磨きます。

■履修すべき科目例

スポーツ・マネジメント研究I~IV / スポーツ生理学特講 / スポーツ栄養学特講 / 公衆衛生学特講 / スポーツ心理学特講 / スポーツ心理学実験実習 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ政策論フィールドワーク演習 / スポーツ生体ダイナミクス特講 など

民間の医療・健康関連産業でのキャリア形成

医療関連企業やヘルスケア関連企業、ライフサイエンス関連企業などにおいて、健康とスポーツについての理論と実践の両面にわたる高度な専門知識を活かしたキャリア形成が期待できます。領域横断的な履修を行い、ビジネスの現場での様々な局面に対応できる柔軟性と実践力、そして幅広い知見を身に付けます。

■履修すべき科目例

健康科学研究I~IV / スポーツ医学特講 / スポーツ栄養学特講 / 公衆衛生学特講 / 運動処方論特講 / スポーツ生理学特講 / スポーツ生理学実験実習 / スポーツ心理学特講 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 / スポーツ・マーケティング・リサーチ特講 / スポーツビジネス論特講 など

生涯スポーツ関連領域で活躍できる人材

高齢化が進む現代日本におけるQOL向上の観点から今後ますます需要が高まる生涯スポーツを、自治体などにおいて指導・発展させる人材となることが期待できます。個々が選択した専門分野を深めるとともに、関連する分野を重点的に履修して、生涯スポーツ指導の現場で即戦力となれる力を修得します。

■履修すべき科目例

トレーニング科学研究I~IV / スポーツ医学特講 / 公衆衛生学特講 / 運動処方論特講 / スポーツ生理学特講 / スポーツ生理学実験実習 / スポーツ心理学特講 / スポーツ運動学特講 / スポーツ測定方法論特講 / スポーツ政策論特講 など

2023年度 スポーツ健康科学研究科 担当教員の研究テーマ

①研究テーマ ②研究概要 ③論文・著書

海老根 直之 教授

- ①人間栄養学、スポーツ栄養学
- ②ヒトを対象とした栄養学・スポーツ栄養学・栄養生理学領域の研究(エネルギー代謝、水分吸収、パフォーマンス向上、消化・吸収)
- ③ The acute effects of a single dose of molecular hydrogen supplements on responses to ergogenic adjustments during high-intensity intermittent exercise in humans, *Nutrients*, 2022, 14(19), 3974.

藤澤 義彦 教授

- ① スポーツ選手の資質に関する研究
- ② 本研究は、スポーツ選手に必要なと考えられる「資質」を明らかにする目的から各種の測定を実施し、そこから得られた結果を基に、競技力向上のための諸方策ならびに、新しいトレーニング方法の開発を行うものである。
- ③ Physical and performance characteristics related to starter status, position, and division in Japanese collegiate American-football players, *Isokinetics and Exercise Science*, 2021, 30(1), 1-8.

福岡 義之 教授

- ① 低温・低酸素暴露下での呼吸-循環-体温システムのクロスアダプテーション
- ② 高地環境(アンデス・チベット)をモデルにした呼吸・循環と体温調節の統合生理学的研究である。
- ③ Chemoreflex drive and the dynamics of ventilation and gas exchange during exercise at hypoxia, *Am J Respir Crit Care Med*, 2003, 168(9), 1115-1122.

北條 達也 教授

- ① スポーツ外傷・障害予防の研究、運動器障害のリハビリテーション・コンディショニングの研究、アンチドーピングに関する研究、温泉医学科学研究
- ② スポーツでは競技特性に合わせた傷害予防が必要であり、その疫学調査や傷害予防法についてテニス、野球、ダンス競技、陸上競技、コンタクトスポーツを中心に疫学的調査、介入研究を行っている。また、温熱・寒冷療法、マッサージ・ストレッチ、鍼治療の研究も行っている。
- ③ 「運動器温熱療法のエビデンスを求めて」『日本生体電気・物理刺激研究会誌』2017, 31, 11-20.

石井 好二郎 教授

- ① 小児から高齢者および要擁護者から競技者までの運動処方方の開発・展開
- ② 身体そのものや、それを取り巻く環境などを実験・調査し、具体的な課題の解決方法を探ります。
- ③ 『もっとなっとく 使えるスポーツサイエンス』講談社, 2017

石倉 忠夫 教授

- ① 運動学習を効率的にすすめる方法
- ② 運動技能の教示方法やフィードバックの与え方が運動学習に及ぼす影響に関する研究
- ③ Effects of angle of model-demonstration on learning of motor skill, *PERCEPTUAL AND MOTOR SKILLS*, 1995, 80(2), 651-658.

井澤 鉄也 教授

- ① スポーツ生化学
- ② 肥満症の予防・改善に有効な運動による脂肪組織や細胞の生物学的応答の変化を細胞生物学的視点から解明することを試みています。
- ③ Metabolomic Profiles in Adipocytes Differentiated from Adipose-Derived Stem Cells Following Exercise Training or High-Fat Diet, *Int J Mol Sci*, 2021, 22(2), 966.

上林 清孝 准教授

- ① ヒトの身体運動における制御・学習メカニズムの神経生理学的研究
- ② アスリートの優れた運動パフォーマンスを可能とする神経基盤に関する研究、歩行・走行における神経制御機構に関する研究
- ③ Modulation of muscle synergies in lower-limb muscles associated with split-belt locomotor adaptation, *Frontiers in Human Neuroscience*, 2022, 16.

中村 康雄 教授

- ① スポーツにおける身体動作の運動学的・動力学的解析と評価
- ② 野球の投球動作などの上肢を用いたスポーツ動作における肩甲骨を含む上肢の動作解析
- ③ A new method of estimating scapular orientation during various shoulder movements: A comparison of three non-invasive methods, *Journal of Electromyography and Kinesiology*, 2019, 44, 46-55.

二宮 浩彰 教授

- ① スポーツマネジメントの理論と実践研究、スポーツ・マーケティング・リサーチ
- ② スポーツ参加者やスポーツ観戦者を対象とした調査を実施し、実証的にスポーツ消費者行動を分析することによって、スポーツマネジメントに役立つ研究成果を導く。
- ③ An examination of the relationship between destination image and marathon participants' behaviours, *Journal of Sport & Tourism*, 2019, 23(4), 225-241.

庄子 博人 准教授

- ① スポーツビジネス、スポーツ産業
- ② する・みる・ささえるスポーツの発展に必要なスポーツビジネス、スポーツ産業の研究
- ③ 「日本版スポーツサテライトアカウント作成の検討 その3ー日本版SSAの開発とスポーツ産業付加価値の推計ー」『スポーツ産業学研究』2019, 29(3), 199-209.

竹田 正樹 教授

- ① スポーツ生理学からみたスポーツ競技力とトレーニングの科学的研究
- ② 対象となるスポーツにとって、競技力と密接に結びついている体力科学要因と最適トレーニング方法を解明する。
- ③ Cross-Country Skiing Analysis and Ski Technique Detection by High-Precision Kinematic Global Navigation Satellite System, *Sensors*, 2019, 19(22), 1-14.

田附 俊一 教授

- ① 「コツ」や「カン」習得の理論と実践: スポーツ運動学
- ② できるだけ教えず、ルールを含む環境の提供により、自らが習得するしかない「技」やスペースを見つけタイミングよく走り込む・ボールを投げるなど「時・空間認識と行動能力」習得の理論と実践。
- ③ ①「侵入型ボールゲームにおけるメンバーやルールの違いとプレイヤー間の潜在的情報伝達」『同志社大学ハリス理化学研究報告』2019, 60(1), 36-42. ② 共著『中学・高校 陸上競技の学習指導「わかって・できる」指導の工夫』道和書院, 2017

若原 卓 准教授

- ① 骨格筋のメカニクス
- ② ヒト骨格筋のメカニクス・収縮特性、筋・腱の形状・機能と基本的な動作のパフォーマンスとの関連、トレーニングによる筋・腱の形状・機能的特性の変化
- ③ Nonuniform muscle hypertrophy: its relation to muscle activation in training session, *MEDICINE AND SCIENCE IN SPORTS AND EXERCISE*, 2013, 45(11), 2158-2165.

柳田 昌彦 教授

- ① 介護・生活習慣病予防のための運動疫学研究
- ② 有酸素運動とレジスタンス運動の複合運動における順序性や運動強度が高齢者の生活体力や動脈ステイフネスなどに及ぼす影響を疫学的に研究している。
- ③ Effect of exercise order of combined aerobic and resistance training on arterial stiffness in older men, *Experimental Gerontology*, 2018, 1(111), 27-34.

横山 勝彦 教授

- ① スポーツ政策論・スポーツ組織文化論
- ② スポーツ政策の理論と制度、国・地域のスポーツ政策、感動の価値創造、スポーツ産業、組織形態のイノベーション
- ③ ①共著『スポーツの組織文化と産業』晃洋書房, 2012 ②共著『スポーツ政策論』成文堂, 2011 ③共著『スポーツの経済と政策』晃洋書房, 2011

TOPICS 研究センターを設置し研究環境の充実を図る

学術研究の進展及び新しい研究分野の開拓に資することを目的として研究センターを複数設置して、学内外の研究者とも幅広く連携を取り、研究環境の充実を図っています。

● スポーツ医科学研究センター

基礎研究の成果を総合化し、人々の生活に還元することを目的とする。特に「子どもの運動指針」「身体活動と睡眠」「生活習慣病予防」「介護予防」などの直近の社会的課題に対する、研究者の有機的連携の場としての役割と機能を果たす。

● スポーツ傷害予防研究センター

設置目的: 医師、理学療法士、トレーナー、トレーニング科学研究者、健康科学研究者、栄養学研究者が横断的に協力し、新たなスポーツ傷害の予防法の提案を試み、その成果を国内外に情報発信することを目的とする。

● スポーツマネジメント研究センター

スポーツマネジメントの観点から産官学の結びつきにおける相互関係の強化に努め、スポーツビジネスの知識体系の共有と新たなビジネスモデルのあり方を検討することを目的とする。